1回戦
10年秋季リーグ
第8週・10月25日
0勝1敗

打線1安打沈黙…

凡退で最後の打者となり、悔しがる白崎浩

【上】打線が沈黙する中、唯一安打を放った赤木

今季初の4番に座るも振るわなかった柴田

立正大2－0駒大 次戦・天下分け目の戦い！

2年前の春季1部2部入替戦に敗れて以来、5シーズン連続で2部に甘んじている駒大。この試合に勝利すれば、1部昇格の挑戦権を得られる重要な試合だったが、打線は今季初登板の相手投手を前に赤木義英(営4)の1安打のみ。完封負けを喫した。

勝てば優勝。「歓喜の瞬間を見よう」と、試合開始前から一塁側・駒大スタンドは盛り上がっていたが、スコアボードの「H(安打)」が点灯したのはわずか1回。攻撃の糸口すらつかめなかった。小椋正博監督も「完敗。明日、頑張るだけ」と、厳しい表情で話した。

立正大・勝又投手の外角低めにコントロールされた変化球に各打者苦戦を強いられた。決め球でもあり、見せ球でもある変化球に凡打の山。安打は6回に2死から放たれた赤木の右前安打のみと、振るわなかった。

唯一の好機は初回。先頭・岡将吾(法3)の四球から1死二塁と先制のチャンスを迎えるが、白崎浩之(法2)、柴田圭哉(商3)が甘い球をとらえ切れず凡退。立ち上がりの隙を突くことができなかったのも大きく響いた。

今季初登板の投手を前に完封負け。81球の“省エネ投球”も許してしまった。笠間将裕(商4)は「野手が淡泊だった…野手の責任」と、投手陣が2失点に抑えていただけに、悔しさをにじませた。

これにより、2回戦は事実上の「優勝決定戦」となる。勝てば優勝、負ければ2部残留。まさに天国と地獄だ。

「今日負けたことは最後の試練だと思って明日はやる」と意気込む主将。相手はプロ野球ドラフト指名候補・南投手の先発も予想されるが、この黒星をエネルギーに変え「打線爆発」といきたいところだ。

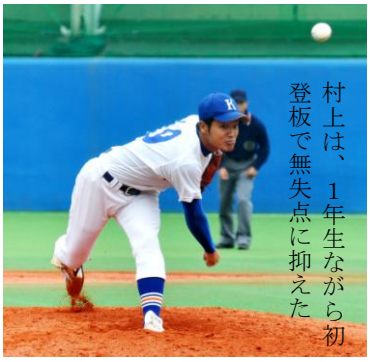
写真＝桝島知佳、堀江あゆみ
文＝山田遼太郎

力投を見せるが、8回途中で降板する白崎勇

立正大	000	100	010	2
駒　大	000	000	000	0

【駒　大】	打安点
⑥　岡	300
④赤　木	310
⑤白崎浩	400
DH 柴　田	200
⑦山　下	300
③笠　間	300
⑧小　林	300
⑨山　本	200
9嘉数駿	000
H9 中　谷	100
②戸　柱	100
2上村新	200
計	2710

	回	打安責
●白崎勇	7 1/3	3162
小　倉	2/3	100
村　上	1	410



村上は、1年生ながら初登板で無失点に抑えた